

令和 8 (2026) 年度ケアラー実態調査の 設計案

令和8(2026)年度 ケアラー実態調査の概要（案）

1 調査の概要	
項目	内容
調査の目的	現行計画の進捗管理や次期計画の施策検討に必要な領域を補完的に把握し、ケアラー支援策の検討に活用する
調査設計の考え方	既存調査では把握しきれていない、大学・学校現場・企業・子育て支援関係機関等・市町社協・民生委員等の各現場から多面的に実態を把握する
調査対象	A 大学生、B SSW、C 県内企業、D 子育て支援関係機関等、E 市町・社協、F 民生委員・児童委員
実施方法	Web調査方式
結果の活用	次期計画における施策、評価指標、関係機関の役割整理等の検討に活用する

2 調査対象及び把握する主な内容				
調査票	調査対象	対象ケアラー層	主に把握する内容	次期計画への活用方向
A 大学生	県内大学生	若者ケアラー、 18歳以降もケアを担う者	18歳以降のケア継続、進学・学業・就職への影響、 相談経験	若者期の切れ目ない支援、大学・関係機関連携
B SSW	SSW	ヤングケアラー	学校現場での把握、外部機関連携、支援困難事例	教育と福祉の連携強化、研修・体制整備
C 企業	県内企業の人事・労務 担当	ワーキングケアラー	介護等の把握状況、両立支援制度、職場風土、行政支 援ニーズ	ワーキングケアラー支援、企業向け啓発
D 子育て支援関係機関等	子育て支援関係機関等	ダブルケアラー、 子育て中の家族介護者	ダブルケア相談、つなぎ先、縦割り課題、必要な支援	分野横断的支援、子育て・介護連携
E 市町・社協	市町、県・市町社協	地域で孤立しやすいケアラー	交流の場、相談支援体制、地域資源、心理的変容	ピアサポート、評価指標、役割整理
F 民生委員・児童委員	民生委員・児童委員	8050、ひきこもり状態の家 族を支えるケアラー等	ひきこもり・8050問題、制度の狭間、家族のケア負担	複合課題世帯への支援、重層的支援との接続

3 今回の調査で明らかにしたいこと	
見えにくい層の把握	18歳以降の若者ケアラー、ワーキングケアラー、ダブルケア、制度の狭間にある世帯を把握
つながりにくさの把握	本人・家族が相談につながらない理由、支援現場で感じる連携上の障壁を把握
支援の方向性の把握	相談支援、ピアサポート、研修、啓発、関係機関の役割整理に必要な示唆を整理

【過年度調査との違い】

- 令和4年度調査：小中高校生・学校を対象に、主にヤングケアラーの実態や学校現場での認識・対応状況を把握
- 令和5年度調査：高齢者・障害者を支えるケアラー本人、相談支援機関等、医療機関を対象に、ケアラー本人の負担や相談支援機関等の対応状況を把握
- 令和8年度調査：過年度調査の更新ではなく、若者ケアラー、ワーキングケアラー、ダブルケアラー、複合課題世帯、制度の狭間にある世帯等について、各現場から補完的・多面的に把握

【A】 大学生向け調査票（全 26 問）

- 対象とするケアラーの種別： 大学生のケアラー（ヤングケアラーの 0B・0G を含む 18 歳以上のケアラー）
- 調査目的： 高校卒業後に支援が途切れる「18 歳の壁」の実態や、進学後の学業・就職活動への影響を解明するため。
- 調査先： 県内の大学に在籍する学生

【言葉の定義について】

- ケアラーとは： 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助（以下、「お世話」といいます。）を提供する方をいいます。
- ヤングケアラーとは： ケアラーのうち 18 歳未満の方をいいます。

I. あなた自身と家族のケア状況について

問 1. あなたの性別を教えてください。（1 つ選択）

1. 男性
2. 女性
3. その他
4. 答えたくない

問 2. あなたの学年を教えてください。（1 つ選択）

1. 大学 1 年
2. 大学 2 年
3. 大学 3 年
4. 大学 4 年
5. 大学 5 年
6. 大学 6 年
7. 大学院生

問 3. あなたの現在の居住形態を教えてください。（1 つ選択）

1. 親・家族と同居
2. 一人暮らし
3. 学生寮
4. 友人等とルームシェア
5. その他（ ）

問 4. あなたの現在の健康状態について教えてください。（1 つ選択）

1. よい
2. まあよい
3. ふつう
4. あまりよくない
5. よくない

問 5. 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(1 つ選択)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問 6. 過去または現在、家族の中であなたが日常生活のお世話をしている人はいますか。
(1 つ選択)

1. 現在お世話をしている
2. 過去にお世話をしていた(現在はしていない)
3. したことはない ※3 を選んだ方はここで調査終了です。ご協力ありがとうございました。

問 7. あなたがお世話をしている(していた)のは誰ですか。(複数選択可)

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他()

問 8. その人にお世話が必要な理由は何ですか。(複数選択可)

1. 身体の病気・障害
2. 精神的な病気・障害
3. 高齢・要介護
4. 幼い
5. 依存症
6. 日本語が苦手
7. その他()

問 9. あなたは、週に何日くらいお世話をしていますか(していましたか)。(1 つ選択)

1. ほぼ毎日
2. 週に 4～5 日
3. 週に 2～3 日
4. 週に 1 日程度
5. 月に数日程度

問 10. 1 日あたりのお世話の時間はどのくらいですか。(1 つ選択)

1. 1 時間未満
2. 1～3 時間未満
3. 3～5 時間未満
4. 5～7 時間未満
5. 7 時間以上

問 11. あなたは、18 歳未満（高校時代など）の頃から家族のお世話をしていましたか。（1 つ選択）

1. していた
2. 18 歳を過ぎてからお世話を始めた
3. わからない

II. 大学生活・進路への影響について

問 12. お世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響はありましたか。（複数選択可）

1. 受験勉強をする時間が取れなかった
2. 学費等の制約や経済的な不安があった
3. 実家から通える範囲等の通学面の制約があった
4. 家族等から世話を優先するよう求められた
5. 進学するか働くか迷った
6. 大学以外の進学先と迷った
7. 特に影響や苦勞はなかった
8. その他（ ）

問 13. 家族のお世話をしていることで、現在の大学での学業や日々の生活にどのような影響や不安がありますか。（複数選択可）

1. 授業を休みがち・遅刻が多い・行きたくても行けない
2. 課題やレポートをこなす時間がない
3. 単位の取得や進級・卒業ができるか不安がある
4. 睡眠が十分に取れない・授業中に眠くなる
5. 今後就学を続けられるか、大学院等へ進学できるか不安がある・留学ができない
6. 影響や不安はない
7. その他（ ）

問 14. 家族のお世話をすることで、友人関係やサークル活動等に影響はありますか。（複数選択可）

1. サークル等の課外活動に参加できない
2. 友人と遊ぶ時間がない
3. 友人に悩みを話せず孤立感がある
4. 影響はない

問 15. 家族のお世話により、就職活動に影響や悩みはありますか。

1. ある（→問 15-2 へ）
2. ない（→問 16 へ）

問 15-2. どのようなことがありますか。（複数選択可）

1. 自分の進路について考えたり、就職活動をする時間がない
2. 仕事をしながら、家族のお世話ができるかどうか不安がある
3. 家族のお世話をするので、就職先が限定される
4. 生活に必要な収入が得られる就職先に就職できるか不安がある
5. 就職先に家族のことを理解してもらえないか不安がある
6. 就職活動のことで、誰かに相談をしたい

問 15-3. 就職について相談できる相手はいますか。

1. 相談相手がいる（→問 15-4 へ）
2. 相談相手がいない（→問 16 へ）

問 15-4. （問 15-3 で 1 と答えた方）就職について相談相手は誰ですか。（複数選択可）

1. 家族や親戚
2. 友人
3. 大学の教職員
4. 市町の相談窓口
5. ピアサポート団体などの支援団体
6. その他（ ）

問 16. 大学進学や日々の生活において、経済的な影響や不安はありますか。（複数選択可）

1. アルバイトができず生活費が苦しい
2. お世話のために奨学金を利用せざるを得ない
3. 家計を支えるために過度なアルバイトをしている
4. 影響はない

Ⅲ. 18 歳未満の時の振り返り（「18 歳の壁」の検証）

※この項目は、問 11 で「1. していた（18 歳未満の頃からお世話をしていた）」と回答した方にお聞きます。それ以外の方は「Ⅳ」へお進みください。

問 17. お世話をしていたことで、当時（18 歳未満の頃）悩んだり、困っていたことは何でしたか。（複数選択可）

1. 友人との関係や部活動のこと
2. 学業成績や進路のこと
3. 学費や家庭の経済的状況のこと
4. 自分と家族との関係、家族内の人間関係のこと
5. 病気や障害がある家族のこと
6. 自分のために使える時間が少なかったこと
7. 自分が自由に過ごせる場所がなかったこと・自分に自信が持てなかったこと
8. 特にない
9. その他（ ）

問 18. 当時（18 歳未満の頃）、どのようなサポートがあればよかったと思いますか。（複数選択可）

1. 自分のいまの状況について話を聞いてくれる・相談に乗ってくれる人がほしかった
2. 家族の病気や障害、お世話の仕方などについてわかりやすく説明してほしかった
3. 自分が行っているお世話を代わってくれる人やサービスがほしかった
4. 自分の自由に過ごせる場所がほしかった
5. 進路や就職など将来の相談に乗ってくれる人がほしかった
6. 学校の勉強や学習のサポートをしてくれる人がほしかった
7. 家庭への金銭面での支援、学費や奨学金等の支援がほしかった
8. 特にない・わからない
9. その他（ ）

IV. 現在の相談状況と求める支援について

問 19. 家族のお世話や自分の悩みについて、現在誰かに相談したことはありますか。（複数選択可）

1. 家族や親戚
2. 友人
3. 大学の教職員・相談窓口
4. 市町の窓口・支援団体
5. 誰にも相談したことがない

問 20. （問 19 で 5 と答えた方）相談したことがない理由は何ですか。（複数選択可）

1. 相談するほどの悩みではないから
2. 誰に・どこに相談すればよいかわからないから
3. 家族のことを知られたくないから
4. 相談しても解決すると思えないから
5. その他（ ）

問 21. 高校卒業後（18 歳以降）に、支援や相談先が途切れてしまったと感じることはありますか。（1 つ選択）

1. とても感じる
2. 少し感じる
3. あまり感じない
4. 感じない

問 22. お世話をしている家族は、公的サービス（介護保険、障害福祉等）を利用していますか。（1 つ選択）

1. 利用している
2. 利用していないが、利用したい
3. 利用していないし、必要ない
4. わからない

問 23. 公的サービスや医療の手続きなどを、親に代わってあなたが担うことはありますか。（1 つ選択）

1. よくある
2. たまにある
3. ない

問 24. あなた自身の生活や将来のために、現在どのような支援が必要だと思いますか。（複数選択可）

1. 悩みを共感できる同世代との交流の場（ピアサポート）
2. 学費や生活費の経済的支援
3. 就職活動に関する個別相談・配慮
4. お世話を代わってくれるサービス
5. 特にない
6. その他（ ）

問 25. ヤングケアラーへの支援について、県や社会に求めることがあれば自由にお書きください。（自由記述）

問 26. ヤングケアラー向けの LINE 相談窓口（とちぎヤングケアラーチャンネル）を知っていますか？

1. 知っており登録している。
2. 知っているが登録はしていない。（理由： ）
3. 知らなかった。

【B】 スクールソーシャルワーカー（SSW）向け調査票（全 21 問）

- 対象とするケアラーの種別： ヤングケアラー（小中高校生）
- 調査目的： 学校現場でヤングケアラーを発見した後、地域の福祉部局等へつなぐ際に生じる障壁を解明するため。
- 調査先： 県内の公立小・中・高等学校に配置されているスクールソーシャルワーカー

【言葉の定義について】

- ケアラーとは： 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。
- ヤングケアラーとは： ケアラーのうち 18 歳未満の方をいいます。

I. 担当校の状況とヤングケアラーの把握について

問 1. あなたの主な担当校種を教えてください。（複数選択可）

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校
4. 特別支援学校
5. その他（ ）

問 2. 過去 1 年間で、あなたがヤングケアラー（疑い含む）として対応・把握した児童生徒は何人程度ですか。（1 つ選択）

1. 0 人
2. 1～3 人
3. 4～10 人
4. 11～20 人
5. 21 人以上

問 3. 児童生徒がヤングケアラーであると把握した最も多い「きっかけ」は何ですか。（1 つ選択）

1. 教職員からの報告・相談
2. 児童生徒本人からの相談
3. 関係機関からの情報提供
4. その他（ ）

問 4. 把握したヤングケアラーが抱えていた主なケア対象者は誰ですか。（複数選択可）

1. きょうだい
2. 母親
3. 父親
4. 祖父母
5. その他（ ）

Ⅱ. 学校内の連携体制

問 5. 学校内で、ヤングケアラー支援に関するケース会議等は定期的に行われていますか。

(1 つ選択)

1. 定期的に行われている
2. 必要に応じて行われている
3. ほとんど行われていない
4. 行われていない

問 6. 教職員がヤングケアラーの兆候に気づいた際、あなたへスムーズに情報共有される体制はできていますか。(1 つ選択)

1. スムーズに行われている
2. やや課題があるが連携できている
3. あまり共有されない
4. 共有されない

Ⅲ. 福祉・関係機関への「つなぎ」と障壁について

問 7. 把握したヤングケアラーやその家庭を、市町の福祉部局や関係機関につないだ実績はありますか。(1 つ選択)

1. ある
2. ない

問 8. (問 7 で 1 と答えた方) 主なつなぎ先の機関はどこですか。(複数選択可)

1. 市町要対協
2. 市町児童福祉担当課
3. 児童相談所
4. 民生委員・児童委員
5. その他 ()

問 9. 市町の福祉部局等へつなぐ際、最も障壁を感じるプロセスはどこですか。(複数選択可)

1. 本人や保護者が外部の介入を拒否する
2. 既存の福祉制度の要件を満たさず対象外となる
3. その他 ()

問 10. 本人や保護者が支援を拒否する最大の理由は何だと感じますか。(複数選択可)

1. 家族でケアするのが当たり前だと思っている
2. 家庭内を知られることへの抵抗感
3. サービス利用に伴う経済的な不安
4. 本人がケアを負担だと思っていない
5. その他 ()

問 11. ヤングケアラーの把握や支援にあたって、SSW として工夫していること・気をつけていることは何ですか。（複数選択可）

1. ケアを否定せず、寄り添う
2. 関係性を構築する
3. 保護者の孤立感に寄り添う
4. 教員と役割分担を明確にする
5. その他（ ）

問 12. それぞれの学校卒業を迎えるヤングケアラーに対し、卒業後の進路先や福祉機関への引き継ぎはスムーズに行われていますか。（1 つ選択）

1. スムーズに行われている
2. やや課題がある
3. 引き継ぎ先がなく困難である
4. 該当ケースがない

問 13. 卒業後の支援が途切れると感じる具体的な場面はどのような時ですか。（複数選択可）

1. 学校という所属がなくなり状況把握ができなくなる
2. 児童福祉の対象年齢を外れ利用できる制度が減る
3. 進学先や就職先へこれまでの状況が引き継がれない
4. その他（ ）

IV. 求める支援・体制とアウトカム

問 14. 支援に結びつきにくい家庭を支援につなぐため、現在学校でどのようなアプローチが有効だと感じていますか。（複数選択可）

1. 粘り強い家庭訪問や面談
2. 市町児童福祉担当課での情報共有
3. スクールカウンセラーとの連携
4. 民生委員や地域住民との連携
5. その他（ ）

問 15. 教育と福祉の連携向上のために、行政に求める具体的な仕組みは何ですか。（複数選択可）

1. 市町におけるヤングケアラー・コーディネーターの配置
2. 学校と福祉部局の定期的な連絡会議の開催
3. 情報共有のための共通ガイドライン・同意書フォーマットの作成
4. その他（ ）

問 16. 支援につないだ結果、ヤングケアラーの児童生徒にどのような心理的・行動的变化（アウトカム）が見られましたか。（複数選択可）

1. 欠席や遅刻が減った
2. 表情が明るくなり、学習意欲が向上した
3. 自身の将来や進路に前向きになった
4. 特に変化は見られなかった
5. その他（ ）

問 17. ヤングケアラー支援を効果的に行うために、SSW としてどのような情報やスキルが必要だと感じますか。（複数選択可）

1. 介護保険や障害福祉等の具体的な制度知識
2. ヤングケアラー特有の心理的葛藤へのアプローチ手法
3. 他自治体や他校での好事例の共有
4. その他（ ）

問 18. SSW や SC などの専門職の配置は、現在の業務量に対して十分だと感じますか。（1 つ選択）

1. 十分である
2. やや不足している
3. 大幅に不足している
4. わからない

問 19. 県や市町に対し、ヤングケアラー支援体制の整備について求めることがあれば自由にお書きください。（自由記述）

問 20. ヤングケアラー向けの LINE 相談窓口『とちぎヤングケアラーチャンネル』を知っていますか。

1. 知っている （問 21 へ）
2. 知らない （※ここで調査終了です。ご協力ありがとうございました。）

問 21. 『とちぎヤングケアラーチャンネル』について、ヤングケアラー当該者へ紹介したことがありますか。

1. ある
2. ない

【C】 県内企業向け調査票（全 21 問）

- 対象とするケアラーの種別： ワーキングケアラー（ビジネスケアラー）
- 調査目的： 仕事と介護等の両立支援に向けた課題を把握し、今後の施策を検討するため。
- 調査先： 県内に本社・本店・本所を置く企業の人事・労務担当者

【言葉の定義について】

- ケアラーとは： 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。
- ヤングケアラーとは： ケアラーのうち 18 歳未満の方をいいます。
- ワーキングケアラー（ビジネスケアラー）とは： 就業しているケアラー（働きながら介護等を担う人）のことです。

I. 企業の基本情報と従業員の状況

問 1. 貴社の主な業種を教えてください。（1 つ選択）

1. 製造業
2. 卸売・小売業
3. 情報通信業
4. 医療・福祉
5. サービス業
6. その他（ ）

問 2. 貴社の従業員規模を教えてください。（1 つ選択）

1. 30 人未満
2. 30～99 人
3. 100～299 人
4. 300 人以上

問 3. 貴社の従業員の年齢構成の特徴に近いものを選んでください。（1 つ選択）

1. 30 代以下の割合が高い
2. 40 代の割合が高い
3. 50 代以上の割合が高い
4. 各年代同程度

問 4. 「ワーキングケアラー（ビジネスケアラー）」という言葉をご存知ですか。（1 つ選択）

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. 聞いたことはあるがよく知らない
4. 知らない

問 5. 貴社において、家族の介護や看病をしながら働いている従業員数を把握していますか。(1つ選択)

1. アンケート等により把握している
2. 面談等により把握している
3. 把握していない

問 6. (問 5 で 1, 2 と答えた方) 把握しているケアラー従業員の主な年代はどこですか。(複数選択可)

1. 20 代～30 代
2. 40 代
3. 50 代
4. 60 代以上

II. 離職状況と両立支援制度の利用実態

問 7. 過去 3 年間で、家族の介護・看護等を理由に「離職」した従業員はいますか。(1つ選択)

1. いる
2. いない
3. わからない

問 8. 過去 3 年間で、介護等を理由に「働き方の変更(配置転換、時短勤務等)」を申し出た従業員はいますか。(1つ選択)

1. いる
2. いない
3. わからない

問 9. 介護休業、短時間勤務制度などの法定制度について、従業員への周知は行っていますか。(1つ選択)

1. 十分に周知している
2. ある程度周知している
3. 就業規則にはあるが特に周知はしていない
4. 規定されていない

問 10. 法定制度を上回る、貴社独自の仕事と介護・看護の両立支援制度(独自休暇、テレワーク、時差出勤等)はありますか。(1つ選択)

1. 導入している
2. 導入を検討している
3. 導入していない

問 11. 過去 3 年間で、介護休業等の制度を利用した従業員はいますか。(1つ選択)

1. いる
2. いない
3. わからない

問 12. 周囲の業務負担増加などを懸念して、従業員が制度利用を躊躇する傾向は見られますか。(1 つ選択)

1. よく見られる
2. たまに見られる
3. あまり見られない
4. 見られない

Ⅲ. 職場風土と課題

問 13. 仕事と介護・看護の両立支援に関する「管理職向けの研修」は実施していますか。(1 つ選択)

1. 定期的の実施している
2. 過去に実施したことがある
3. 実施を検討している
4. 実施していない

Ⅳ. 企業として求める支援について

問 14. 従業員からの介護・看護に関する社内外の相談窓口は設置していますか。(1 つ選択)

1. 社内に専用窓口がある
2. 社外の専門窓口を契約している
3. 専用窓口はないが人事や上司が対応している
4. 設置していない

問 15. 従業員の仕事と介護・看護の両立ニーズを把握するためのアンケートやヒアリングを定期的の実施していますか。(1 つ選択)

1. 実施している
2. 実施を検討している
3. 実施していない

問 16. ワーキングケアラーの就労継続（両立支援）に取り組む上で、貴社の主な課題は何ですか。(複数選択可)

1. 人手不足で業務のカバー体制が作れない
2. 従業員から申告がないためニーズが掴めない
3. 介護保険等の外部制度が複雑でアドバイスできない
4. 社内の理解が進んでいない
5. その他（ ）

問 17. 仕事と介護・看護の両立を推進するために、県からのどのような支援が必要ですか。(複数選択可)

1. 専門アドバイザー（社労士・ケアマネ等）の無料派遣
2. 先進企業の好事例の共有
3. 社内研修用動画や啓発ツールの提供
4. セミナーの開催
5. その他（ ）

問 18. 栃木県では、家族のケアをしながら働き続けられる制度の構築を支援するため、希望する企業に対して「社会保険労務士等の専門アドバイザー」を無料で派遣する事業を実施しています。この事業をご存じでしたか、また活用していますか。（1つ選択）

1. 内容を知っていて、活用している（過去に活用した）
2. 内容を知っているが、活用したことはない
3. 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らなかった
4. これまで聞いたことがなかった

問 19. （問 18 で 2, 3, 4 と答えた方）今後、このような「専門アドバイザーの無料派遣事業」の利用を希望しますか。（1つ選択）

1. ぜひ活用したい
2. 活用を検討したい
3. あまり活用を希望しない
4. 活用を希望しない

問 20. 栃木県では、企業の経営者や人事・労務担当者等を対象に、「働き方改革」をテーマとしたセミナーを開催しています。今後、このようなセミナーが開催された場合、参加を希望しますか。（1つ選択）

1. ぜひ参加したい
2. 参加を検討したい
3. あまり参加を希望しない
4. 参加を希望しない

問 21. その他、ワーキングケアラの離職防止に関して、課題や要望があれば自由にお書きください。（自由記述）

【D】子育て支援関係機関等向け調査票(全 17 問)

- 対象とするケアラーの種別：ダブルケアラー（育児と介護等の複合的ケア負担を抱える者）
- 調査目的：育児相談の影に隠れやすい「ダブルケア」の潜在的ニーズを捕捉し、分野横断的な連携の課題を把握するため。
- 調査先：県内の子育て支援関係機関等（担当者・スタッフ）

【言葉の定義について】

- ケアラーとは： 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。
- ヤングケアラーとは： ケアラーのうち 18 歳未満の方をいいます。
- ダブルケアラーとは： 育児と介護等の複合的ケア負担を抱える方をいいます。

I. 機関等の基本情報と相談実態

問 1. 貴機関等の主な運営主体を教えてください。(1 つ選択)

1. 市町(直営)
2. 社会福祉法人
3. NPO 法人
4. 民間企業
5. その他()

問 2. 貴機関等の 1 日あたりの平均利用者数はどのくらいですか。(1 つ選択)

1. 10 人未満
2. 10～29 人
3. 30～49 人
4. 50 人以上

問 3. 利用者(保護者)の相談や会話の中で、子育てだけでなく「自身の親の介護や病気のケア」に関する悩みを聞いたことはありますか。(1 つ選択)

1. よくある
2. たまにある
3. ほとんどない
4. ない

問 4. 貴機関等において、育児と介護等を同時に担っている「ダブルケアラー」は、どのくらい存在すると感じますか。(1 つ選択)

1. かなり多いと感じる
2. 少しはいると感じる
3. ほとんどいないと感じる
4. わからない

問 5. ダブルケアラーと思われる利用者の主な年代はどこですか。(複数選択可)

1. 20 代
2. 30 代
3. 40 代
4. 50 代以上

問 6. ダブルケアラーが抱える「介護対象者」は誰であることが多いですか。(複数選択可)

1. 自分の実親
2. 配偶者の親(義父母)
3. 自身のきょうだい
4. 配偶者・パートナー
5. その他()

II. ダブルケアラーの捕捉と「縦割り」の課題

問7. 実際にダブルケアの相談を受けた際、機関等のスタッフとして主にどのような対応をしていますか。(複数選択可)

1. 傾聴し、精神的なサポートを行う
2. 市町の高齢者・障害者福祉の窓口を案内する
3. 地域包括支援センター等へ直接連絡し引き継ぐ
4. 特に対応できていない
5. その他()

問8. 利用者が「自分の親の介護も大変で…」と漏らした際の、適切なつなぎ先は明確ですか。(1つ選択)

1. 非常に明確である
2. だいたい明確である
3. あまり明確でない
4. 明確でない

問9. ダブルケアの悩みを高齢福祉や障害福祉の窓口へつないだ事例はありますか。(1つ選択)

1. ある
2. ない

問 10. 他機関へつなぐ際、子育てと介護の「縦割りの弊害」を感じる場面はありますか。(1つ選択)

1. よく感じる
2. たまに感じる
3. ほとんど感じない
4. つないだことがない

問 11. 複合的な課題を抱える家庭を支援する上で、現場として最も困難に感じることは何ですか。(複数選択可)

1. 相談窓口が分野ごとに分かれておりワンストップで対応できない
2. 利用者が遠慮して SOS を出さない
3. スタッフに介護保険等の専門知識がない
4. 育児と介護の両方に対応できるサービスがない
5. その他()

Ⅲ. 求める支援・体制について

問 12. 現場の感覚として、ダブルケアラーはどのような支援を最も求めていると推測しますか。(複数選択可)

1. 子どもの一時預かり・保育の充実
2. 親のデイサービス等の柔軟な利用
3. 家事の代行支援
4. 育児と介護の悩みを同時に聞いてくれる相談相手
5. その他()

問 13. 相談の中で、ダブルケアに伴う「経済的な不安(退職による減収等)」の訴えを聞くことはありますか。(1 つ選択)

1. よくある
2. たまにある
3. ほとんどない
4. ない

問 14. 機関等スタッフとして、ケアラー支援や介護保険制度等の知識を習得する「研修」の必要性を感じますか。(1 つ選択)

1. 非常に感じる
2. 少し感じる
3. あまり感じない
4. 感じない

問 15. 研修を受けるとしたら、どのような内容を希望しますか。(複数選択可)

1. 介護・障害福祉制度の基礎知識
2. ダブルケア世帯への声かけのコツ
3. 関係機関へのスムーズな連携手法
4. 事例検討
5. その他()

問 16. ダブルケア世帯を支援するために、市町や県に対してどのような体制整備を求めますか。(複数選択可)

1. 分野横断的なワンストップ相談窓口の設置
2. 関係機関等と地域包括等の定期的な連絡会議
3. 啓発パンフレットの作成・配布
4. 家事育児ヘルパー利用費等の経済的補助
5. その他()

問 17. その他、ダブルケアラー支援に関して、日頃感じている課題や要望があれば自由にお書きください。(自由記述)

【E】 市町・県市町社会福祉協議会向け調査票（全 21 問）

- 対象とするケアラーの種別： ケアラー全般
- 調査目的： ケアラーが交流できる場（ピアサポート等）の運営実態を把握し、参加によるケアラーの心理的変容（アウトカム）を評価するため。
- 調査先： 県内各市町のケアラー支援担当課、および県・市町社会福祉協議会

【言葉の定義について】

- ケアラーとは： 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。
- ヤングケアラーとは： ケアラーのうち 18 歳未満の方をいいます。

I. 交流の場（ピアサポート）の実施状況

問 1. 貴機関の種別を教えてください。（1 つ選択）

1. 市町行政担当課
2. 市町社会福祉協議会
3. 県社会福祉協議会

問 2. 貴市町・社協において、ケアラー同士が交流できる場（介護者サロン、ケアラズカフェ、家族会等）を実施・支援していますか。設置目的や開催頻度、内容を支援しているものについてご回答ください。（1 つ選択）

1. 実施・支援している
2. 現在はしていないが今後予定している
3. 実施していない ※3 を選んだ方は問 15 へお進みください。

問 3. （問 2 で「1」と答えた方）貴市町・社協において実施・支援している交流の場について、具体的な「名称」と「主な開催場所（施設名等）」をそれぞれご記入ください。※複数ある場合は、複数ご記入ください。（記述式）

①名称（例：〇〇ケアラズカフェ）②主な開催場所（例：〇〇地域ケアプラザ、〇〇公民館）

問 4. （問 2 で 1 と答えた方）ヤングケアラーに特化した交流の場はありますか。（1 つ選択）

1. ある
2. ない

問 5. （問 4 で「1. ある」と答えた方）そのヤングケアラーに特化した交流の場の具体的な「名称」や「主な開催場所・運営主体」をそれぞれご記入ください。※複数ある場合は、複数ご記入ください。（記述式）

①名称（例：〇〇交流会）②主な開催場所（例：〇〇社会福祉協議会、オンライン）

問 6. 実施している交流の場の「主な対象者」は誰ですか。（複数選択可）

1. 高齢者介護の家族
2. 認知症患者の家族
3. 障害児・者の家族
4. ヤングケアラー
5. すべてのケアラー対象
6. その他（ ）

問 7. 交流の場の運営は、主に誰が主体となって行っていますか。(1 つ選択)

1. 行政(直営)
2. 社会福祉協議会
3. NPO 法人・ボランティア団体
4. 当事者団体・家族会
5. その他()

問 8. 交流の場は、どのくらいの頻度で開催していますか。(1 つ選択)

1. 週 1 回以上
2. 月 2～3 回程度
3. 月 1 回程度
4. 数ヶ月に 1 回程度
5. 不定期

問 9. 1 回あたりの平均参加人数はどのくらいですか。(1 つ選択)

1. 5 人未満
2. 5～9 人
3. 10～19 人
4. 20 人以上

問 10. 参加者は、主にどのような経路で交流の場を知り、参加していますか。(複数選択可)

1. ケアマネ・相談支援専門員からの紹介
2. 行政の窓口での案内
3. 市町の広報誌・HP
4. 参加者の口コミ
5. その他()

問 11. 交流の場に参加しているケアラーが抱えている「主な悩み」は何ですか。(複数選択可)

1. 心身の疲労・ストレス
2. 先の見えない不安
3. 公的サービスの利用方法がわからない
4. 経済的な不安
5. 周囲の理解不足による孤立感
6. その他()

Ⅱ. 支援の質と心理的変容(アウトカム)の評価

問 12. 交流の場への参加は、ケアラーの「孤独感や孤立感」の軽減に繋がっていると評価できますか。(1 つ選択)

1. 大いに繋がっている
2. ある程度繋がっている
3. あまり繋がっていない
4. 把握していない

問 13. 参加後のケアラーの心理的・行動的変容（アウトカム）をどのように把握していますか。（複数選択可）

1. 参加者へのアンケート実施
2. スタッフによるヒアリングや記録
3. ケアマネ等からの報告
4. 客観的な把握はしていない
5. その他（ ）

問 14. 参加したケアラーに見られた具体的な「良い変化」の事例はありますか。（複数選択可）

1. 表情が明るくなり、よく笑うようになった
2. 他の参加者にアドバイスするようになった
3. 公的サービスを利用するきっかけとなった
4. 自分の健康や趣味に目を向けるようになった
5. その他（ ）

Ⅲ. インフォーマルな支援のニーズと今後の課題

問 15. 交流の場や相談窓口を通じて、公的サービスでは解決できない「インフォーマルな支援（ちょっとした見守り、家事等）」へのニーズはどの程度把握されていますか。（1つ選択）

1. 十分に把握している
2. ある程度把握している
3. あまり把握していない
4. 把握していない

問 16. 具体的にどのようなインフォーマル支援が求められていますか。（複数選択可）

1. ゴミ出しや買い物代行
2. 短時間の見守りや話し相手
3. 庭の手入れや電球交換等の軽微な生活支援
4. 通院や外出の付き添い
5. その他（ ）

問 17. 地域において、これらのインフォーマル支援を主に担っているのは誰ですか。（複数選択可）

1. NPO 法人
2. ボランティア団体
3. ご近所・自治会
4. 民間企業（自費サービス）
5. 担い手が不足している

問 18. 交流の場を継続・拡充していく上での現在の課題は何ですか。（複数選択可）

1. 運営資金の不足
2. 運営を担う人材の不足
3. 参加者が固定化し新規が入りにくい
4. ヤングケアラーや男性が参加しにくい雰囲気がある
5. その他（ ）

問 19. ケアラー支援を推進するにあたり、市町庁内（高齢・障害・児童等）の連携体制・重層的支援体制は構築されていますか。（1 つ選択）

1. 十分に構築されている
2. 構築を進めている途中である
3. 縦割りが残り不十分である
4. 構築されていない

問 20. 市町間の取組の平準化や質の向上を図るために、県に対してどのような支援を求めますか。（複数選択可）

1. 成果を測るための共通評価指標の提示
2. 県内他市町の好事例の共有
3. 交流の場立ち上げに向けた財政的支援
4. 支援人材の育成研修の実施
5. その他（ ）

問 21. その他、地域のケアラー支援を充実させるために県に要望することや、現場での課題があれば自由にお書きください。（自由記述）

【F】福祉的課題を抱える世帯の状況調査(民生委員・児童委員向け)

(全19問)

- 調査目的：育児と介護に直面する「ダブルケア」、80代の親が50代の子を養育する「8050問題」などの「複雑・複合的な課題を抱える世帯」や、「ひきこもり」などの「制度の狭間にいる世帯」といった、地域に潜在する課題の状況を「見える化」し、今後の福祉施策の参考とするため。
- 調査先：県内の民生委員・児童委員

I. 相談受付内容について

問1. あなたは、これまでに受けた困りごとの相談で、どのような相談が多いと感じますか。最も多いと感じるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)

1. 高齢者に関する困りごと(医療や介護、生活のことなど)
2. 障害者(児)に関する困りごと(生活や就労、将来のことなど)
3. 子どもに関する困りごと(妊娠中の不安や子育てのことなど)
4. 生活困窮に関する困りごと(生活保護や多重債務のことなど)
5. その他()

II. 複雑・複合的な困りごとを抱えた世帯の把握

問2. あなたは、ひとつの世帯で“公的な福祉サービスの分野をまたがる困りごと(いわゆる「複雑・複合的な課題」)”を抱えている世帯を把握していますか。(1つ選択)※複雑・複合的な課題とは：高齢者福祉、障害者福祉、子ども・子育て福祉など、公的な福祉サービス分野をまたがって支援を必要とする者

1. 把握している ⇒「問3」へ
2. 把握していない ⇒「問6」へ
3. 分からない ⇒「問6」へ

問3. (問2で1と答えた方にお聞きます)それは、どのような困りごとでしたか。当てはまるものをすべて選び、おおよその件数を記入してください。(複数選択可)

1. 育児と介護に同時に直面している(ダブルケア) []件
2. 高齢の親とひきこもり状態などの中高年が同居している(8050問題) []件
3. 高齢の親と障害者(児)が同居している []件
4. 障害者が、親の介護又は育児をしている []件
5. その他() []件

【言葉の定義について】

- ひきこもりとは…(「問3」、「問7」、「問15」及び「問16」でいう「ひきこもり」も同様です)

概ね15歳から65歳未満の者で、次に該当するような方

① 仕事・学校・家庭以外の人との交流などの社会参加ができない状態が概ね6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の方

② 上記のような社会的参加ができない状態であるが、時々買い物などで外出することがある方

例) ・普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける

・普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する

※ ただし、いずれも重度の障害や疾病等で外出できない方を除きます。

1. 受けたことがある ⇒「問5」へ
2. 受けたことはない ⇒「問6」へ

1. 市役所・町役場の担当課へつないだ []件
2. 市役所・町役場以外(例:社会福祉協議会等)の支援機関へつないだ []件
3. 自らが支援を続けている []件
4. 支援につながっていない []件

1. 把握している ⇒「問7」へ
2. 把握していない ⇒「問10」へ
3. 分からない ⇒「問10」へ

1. ごみ屋敷〔 〕件
2. ひきこもり状態など、社会的に孤立している疑いがある者〔 〕件
3. 要介護の認定には至らないが、買い物や通院などの日常生活に困っている高齢者〔 〕件
4. 障害の疑いがあるが、等級の認定基準に満たないため認定を受けられない者〔 〕件
5. その他()〔 〕件

1. 受けたことがある ⇒「問9」へ
2. 受けたことはない ⇒「問10」へ

1. 市役所・町役場の担当課へつないだ []件
2. 市役所・町役場以外(例:社会福祉協議会等)の支援機関へつないだ []件
3. 自らが支援を続けている []件
4. 支援につながっていない []件

1. 相談内容が複雑で、どこに相談したり、つないだりしたら良いか分からなかった
2. 担当する要支援者を支援機関につなごうとしたが、対応してもらえなかった(たらい回しにされた)
3. 支援が必要であると思われる方がいるが、本人が支援を望んでおらず、声掛けや支援を拒否されてしまった
4. その他()
5. 対応が困難と感じたことはない

問11. 民生委員・児童委員として活動するうえで、不満や不安に感じることはありますか。(複数回答可)

1. 現職者の高齢化
2. 業務負担の大きさ
3. プライバシー、責任への不安
4. 地域のつながりの希薄化
5. 無報酬であること
6. その他()

問12. 民生委員・児童委員の担い手確保対策として何が有効であると考えますか。(複数回答可)

1. 就業との両立支援
2. チーム制の導入
3. 次世代への理解促進
4. 記録や情報共有等のICT化
5. 研修の強化
6. その他()

V. 災害時の福祉的支援について

問13. あなたは、担当する地区において、災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害者等を把握していますか。(一つ選択)

1. 把握している
2. 把握していない、分からない

問14. (問13で1とお答えした人にお聞きします)

あなたが把握する、災害時に自ら避難することが困難な人は、実際に災害が発生し、避難を行う際にどのような課題がありますか。(複数回答可)

1. 自ら避難することが困難であることを周囲の人が知らない
2. 避難支援等を実施する人がいない
3. 避難先が定まっていない
4. その他()

VI. ひきこもり状態や、その疑いがある者について

問15. 「ひきこもり」状態や、その疑いがある者を把握している方にお聞きします。※「ひきこもり」状態の者などを把握していない場合、お答えいただく必要はありません。その方や世帯の状況について、把握している範囲でお答えください。※明確に分からない場合には、「分からない」又は「推察」で結構です。

<1人目>(1) 性別(1つ選択)

1. 男性
2. 女性

(2) 年齢[]歳代

(3) 同居家族の有無(1つ選択)

1. 有
2. 無

(4) ひきこもりの状況(1つ選択)

1. 外出せずにひきこもっている
2. ひきこもってはいるが、買物程度の外出はする
3. 分からない

(5) ひきこもりの期間(1 つ選択)

1. 1 年未満
2. 1～3 年未満
3. 3～5 年未満
4. 5～10 年未満
5. 10 年以上
6. 分からない

(6) ひきこもりに至った経緯(複数選択可)

1. 不登校
2. 就職できなかった
3. 失業した
4. 家族や家庭環境に起因
5. 疾病・性格など本人の状況
6. 分からない

<2 人目>(※いらっしゃる場合のみご記入ください)(1) 性別(1 つ選択)

1. 男性
2. 女性

(2) 年齢[]歳代

(3) 同居家族の有無(1 つ選択)

1. 有
2. 無

(4) ひきこもりの状況(1 つ選択)

1. 外出せずにひきこもっている
2. ひきこもってはいるが、買物程度の外出はする
3. 分からない

(5) ひきこもりの期間(1 つ選択)

1. 1 年未満
2. 1～3 年未満
3. 3～5 年未満
4. 5～10 年未満
5. 10 年以上
6. 分からない

(6) ひきこもりに至った経緯(複数選択可)

1. 不登校
2. 就職できなかった
3. 失業した
4. 家族や家庭環境に起因
5. 疾病・性格など本人の状況
6. 分からない

VII. ひきこもり・8050 問題世帯における「親(ケアラー)」の状況について

「ひきこもり」状態や「8050 問題」の世帯を把握している方にお聞きします。※把握していない場合は回答不要です。

【言葉の定義について】

- ケアラーとは：高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。

問16. ひきこもり状態にある子を支える親(ケアラー)は、どのような悩みを抱えていると感じますか。(複数選択可)

1. 「自分亡き後」の子の生活や将来への強い不安
2. 親自身の高齢化による体力的な限界(自分の介護が必要等)
3. 経済的な困窮
4. 世間体や周囲の目が気になり、地域社会から孤立していること
5. その他()

問17. 対象となる親(ケアラー)は、地域社会やご近所付き合いから孤立している傾向がありますか。(1 つ選択)

1. 非常に孤立している
2. やや孤立している
3. 孤立していない
4. わからない

問18. 親自身に支援が必要と思われる場合でも、同居する子の状況等を理由に、支援の利用につながりにくいケースはありますか。(1 つ選択)

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問19. 支援につなぐため、県や市町に対してどのような体制整備を求めますか。(複数選択可)

1. 年齢や障害を問わない「断らないワンストップ相談窓口」の設置
2. ひきこもり支援関係者(ひきこもりサポーター等)の配置拡充と、情報共有体制の構築
3. 親(ケアラー)が休息し、悩みを共有できる「家族会」の充実
4. ひきこもり支援機関(ポラリス等)との連携強化
5. その他()